

歴史の扉

1998

第5号

(財)広島市歴史科学教育事業団 文化財課



紙屋町
大
発掘

大都市広島
ひと皮めくれば・・・

紙屋町 大発掘

紙屋町を発掘する、という多くの人はこんな疑問をお持ちになることだと思います。
「こんな所に遺跡？」
広島一の街中に、ちゃんと遺跡がありました。
広島城です。

江戸時代、広島城は下の図のように内堀・中堀・外堀の3重の堀を巡らせる広大な城でした。紙屋町から八丁堀にかけての相生通りはその南側の端=外堀があつたところです。今回ここにその発掘結果の第一報をお届けいたします。



外堀は1911(明治44)年に埋め立てられ、正確にはどこにあったのかさえ、わからなくなっています。



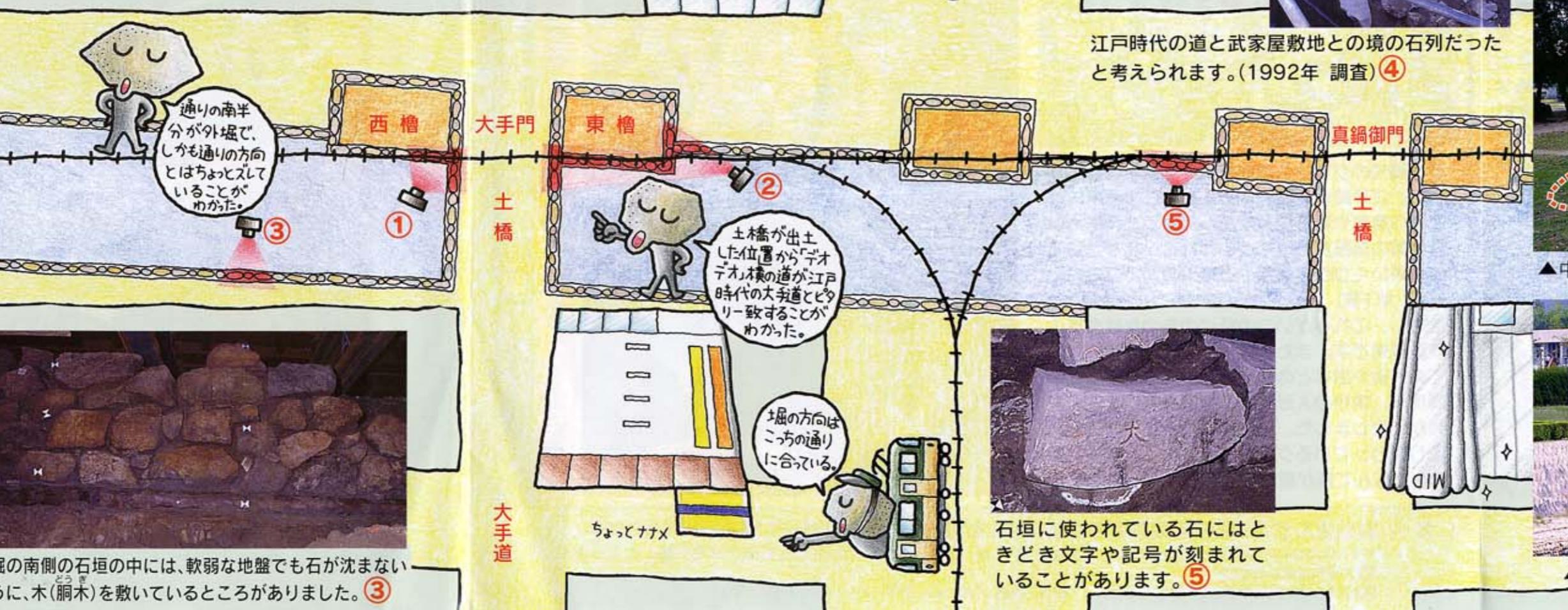
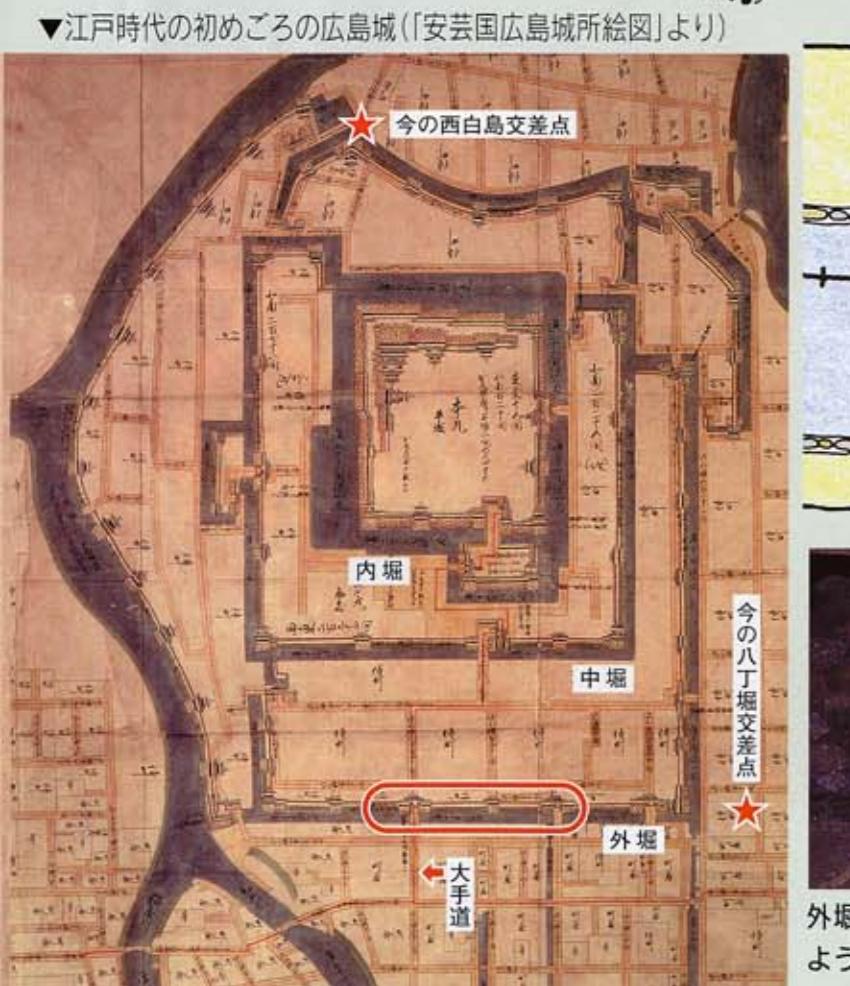
広島城の正面玄関、いわゆる大手門の櫓を乗せていた石垣(=櫓台)です。他の石垣よりもかなり大きめの石が使われています。それに直角にしている石垣は、大手門から堀を横切る橋(土橋)の石垣です。



上の写真は1992年に復元された二の丸表御門です。大手門もかつてはこんな姿だったのかも知れません。



江戸時代の道と武家屋敷地との境の石列だったと考えられます。(1992年調査)④



外堀の南側の石垣の中には、軟弱な地盤でも石が沈まないように、木(桐木)を敷いていたところがありました。③

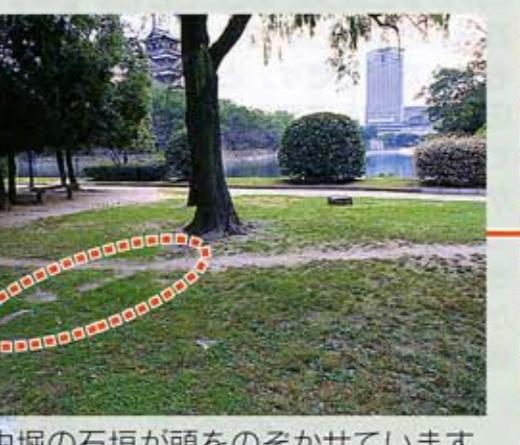
貴重なゴミ？ 発掘は究極のリサイクル

堀のなかなど、広島城の遺跡を掘っていると、こわれた茶碗や下駄などがたくさん出てきます。当時の人にとっては堀に投げ捨てた、ただのゴミなのですが、江戸時代の暮らしを知るうえでの貴重な資料です。また、その作られた年代を調べることで、堀がいつ作られたのかを知る手がかりとなります。



広島城の散歩道 あつた あります あるはずだ

江戸時代の広島城が今よりももっと広かったことを知っている人も、その名残を今も目にすることができるということまで存じでしょうか。あるものはビルの谷間に、あるものは雑草のなか、ちゃんと残っているんですよ。



▲中堀の石垣が頭をのぞかせています



▲太田川左岸にあつた櫓台です



発掘調査1997

発掘調査1997

▶ 古墳の中の石のトンネルと石室
「白木人」のアンテナはどこを向く？ 塔の岡古墳群



とうおか
塔の岡古墳群は、白木中学校の裏山にあります。約1400年前に造られた中華マン形の古墳（円墳）が9基あり、うち2基の調査を行いました。2基の古墳は横穴式石室といって、棺をおく石組の部屋と外とを石のトンネルで結ぶ造りであります。これで共通していましたが、片方は石の部屋をさらに石でくぎっていたり、床に須恵器とよばれる堅い土器の破片を敷きつめているなどの特徴をもっていました。こうした例は県北の古墳によくみられるそうです。いまでは白木町は「広島市内」ですが、当時は県北との交流のほうが盛んだったのかもしれません。



▲こんなにきれいな宝石類が出土しました。

◀須恵器の破片を敷きつめた石室の床



造成技術は一八〇〇年の時を越えて 大町七九谷遺跡群



▶火事にあつた家の跡
▶石を棺にしている墓

おおまちしちくだに
大町七九谷遺跡群は、武田山から東へと伸びる3本の尾根の上にあります。土器などとともに、弥生時代の家や貯蔵用の穴の跡がみつかり、ここがかつてムラだったことがわかります。また、石組みの棺などを用いた墓の跡が出土し、墓地もあったようです。ところで、このムラは、太田川をはさんで戸坂や高陽の団地を見渡せるとても眺めのよいところです。この景色を眺めながら発掘調査をするうち、これらの団地と大町七九谷ムラとにある共通点があることに気がつきました。それは階段のように山を造成して家が建てられていることです。1800年の時を経ても考えることは同じなんですね。

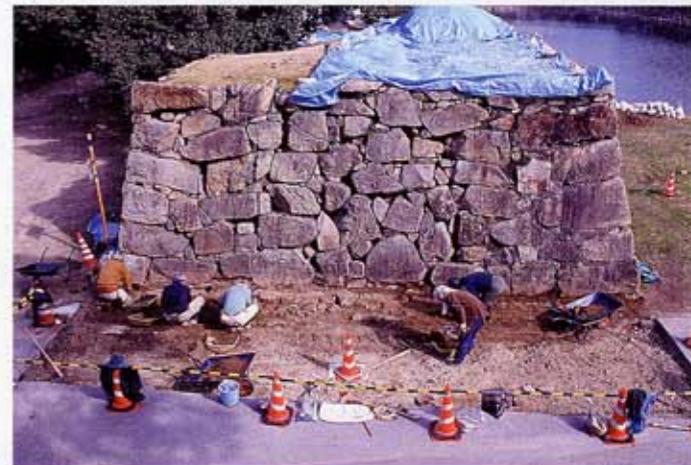


中小田古墳群

さんかくぶちしんじゅうきょう
最近よくマスコミを賑わす三角縁神獣鏡。広島でも出土したところがあることを存じでしたか。太田川をみおろす小高い丘の上にある中小田古墳群です。ここには約1700～1500年前に造られた12基の古墳があることがわかっています。昨年度から古墳の形や大きさを調べており、今回は2基の調査を行いました。

広島城本丸跡

昨年度から史跡広島城跡の本丸の調査を行っています。本丸とは内堀で囲まれた、天守閣の建っている部分で、藩主が住んでいた城の中心部です。今年度は裏御門と冠木門の調査を行いました。いずれもその位置をはっきりさせ、建物の基礎部分の残り具合を確認することが目的です。



◆中小田古墳群（第5号古墳） 調査風景

◆広島城本丸跡（裏御門跡） 調査風景

◀グランド下からみつかった建物の基礎

◆遺物はこんな感じで出土します。

一〇代の足音を聞きつづけた遺跡

基町高校グランド地点

広島城遺跡



基町高校のグランドの南東部分を発掘調査しました。江戸時代の絵図によると、この場所には武士の屋敷や藩の学校があったようで、明治以降は軍の施設があったといわれています。調査の結果いくつかの建物や石組みの溝、ゴミ穴、井戸、地下室、トイレなどの跡が見つかりました。ただし、これらがいつの時代のものかは今後の検討課題です。また、江戸から明治時代にかけての茶碗や皿などの食器類、鍋・すり鉢などの調理具、焼物の人形やお金などあらゆる生活用具が出土しました。普段は高校生たちが元気に走りまわっているグランドの下にこんな遺跡があったなんて誰が想像したでしょう。



写真掲載にご協力いただいた方々

「安芸国広島城所絵図」国立公文書館内閣文庫

広島市内航空写真

広島市市民局振興課

なお、遺跡の位置図は国土地理院発行の25,000分の1の地形図（「井原市」「祇園」「広島」）を複製、利用したものです。

発行 財団法人 広島市歴史科学教育事業団 文化財課

〒730-0042 広島市中区国泰寺町1丁目4番15号

☎ 082-248-0427

発行日 1998(平成10)年3月31日 制作・印刷 (株)ソーシャ・エー・ティー(SAD)

1998年4月1日より当事業団の名称は

「財団法人 広島市文化財団」となります。